

答え合わせ・解説

問1	答え 4 志賀島	後漢の光武帝から授けられたとされる「漢委奴国王」の金印は、江戸時代、福岡県の志賀島で農作業中に偶然発見されたと伝えられています。この発見により、古事記などの文献に頼るだけでなく、考古学的な資料によって古代の外交関係が証明されることとなりました。
問2	答え 2 魏志倭人伝	魏の歴史をまとめた『魏志』のうち、東夷伝という章に倭人に関する記述があり、一般に『魏志倭人伝』と呼ばれます。当時の日本の社会情勢、邪馬台国の卑弥呼の様子、生活習慣などが記録されています。
問3	答え 3 後漢書	『後漢書』は、後漢時代の出来事をまとめた中国の歴史書です。この中にある「東夷伝」という章には、当時の日本（倭）の様子が記されており、57年に奴国の王の使いが後漢へ向かい、光武帝から金印を授けられたという記述が含まれています。
問4	答え 3 銅鐸	銅鐸は青銅製の釣鐘状の道具で、当初は小型でしたが、次第に大型化しました。表面には稲作の様子や動物、自然などの絵が描かれることもあり、当時の人々の信仰心や芸術性を伝えています。
問5	答え 3 小国	当時の日本は「百余りの小国」に分かれていたと『後漢書』などに記されています。これらの小国は、豊かな水田地帯を支配する有力者（首長）を中心に組織され、ときには他の集落や小国と水や土地をめぐる激しく争いました。
問6	答え 4 吉野ヶ里遺跡	吉野ヶ里遺跡は、周囲に深い堀（環濠）を巡らせ、外敵の侵入を防ぐ構造を持つ大規模な集落跡です。敷地内には高床倉庫や物見やぐら、王の住居と見られる建物などが再現されています。
問7	答え 3 祭り	銅鐸は、このような祭りの場で、神聖な音を出したり、掲げられたりすることで、人々を統率し豊作を祈るために使われました。祭りは単なるレクリエーションではなく、集落の人々を結びつける政治・宗教的なイベントでした。
問8	答え 4 朝貢	朝貢は、中国の皇帝に対して周辺諸国の支配者が使者を派遣し、贈り物（貢ぎ物）を差し出す外交儀礼です。皇帝はその返礼として、称号や印などを与え、支配者としての正当性を認めました。これにより、日本側の首長は国内の勢力争いで優位に立つことができました。
問9	答え 4 鉄器	鉄は青銅よりも硬く丈夫であるため、刃先として農具（鋤・鍬）や武器（剣・矛・鏃）などに加工されました。鉄製農具の普及により、土地の開墾や灌漑施設の整備が効率的に行われるようになり、収穫量が大幅に増大しました。
問10	答え 2 卑弥呼	卑弥呼は「鬼道」と呼ばれる呪術を用いて人々を統治した女王です。3世紀、魏に使者を派遣して高い政治的地位を認められ、有力な指導者として倭をまとめました。これは中国の歴史書『魏志倭人伝』に詳しく記されています。
問11	答え 4 吉野ヶ里遺跡	吉野ヶ里遺跡は、周囲に二重の環濠と柵をめぐらせた巨大な集落跡です。内部には多数の高床倉庫や竪穴住居、祭祀場などが復元されており、弥生時代の社会構造や生活の様子を知る上で非常に重要な遺跡です。
問12	答え 1 銅矛	銅矛は、九州地方で出土することが多い青銅製の武器型祭器です。これらは実際に戦いで使う武器というよりは、葬儀や祭礼の場で神を祀ったり、亡くなった首長の権力を誇示したりするための道具として副葬されました。
問13	答え 1 ローマ帝国	ローマ帝国は、地中海沿岸の全域を支配下に置き、高度な法整備や道路網、水道技術などを有していました。同時期のアジアの中国やインドとも間接的な交易関係があり、広い範囲で交流が行われていました。
問14	答え 2 光武帝	光武帝は、57年に九州の奴国から訪れた使者に対し、朝貢の返礼として金印を授けました。これは当時の中国が、周辺の地域の小国を支配下（冊封体制）に置こうとした外交政策の一環でした。
問15	答え 4 弥生町	1884年、東京都文京区の弥生町で特徴的な土器が発見されました。縄文土器とは異なる、薄手で赤褐色をしたこの土器は、発見地の名前をとって「弥生土器」と名付けられました。これが弥生時代という名称の直接の由来となっています。